

☆「大化改新」とは…645(大化元)年6月の蘇我氏打倒にはじまる一連の政治改革をさす。氏姓制度の弊害を打破し、唐の律令制にならった天皇中心の中央集権国家の建設を目標とした。

1 <sup>なかのおおえのみこ</sup>中大兄皇子、2 <sup>なかとみのかまたり</sup>中臣鎌足 がそのきっかけをつくる。

改新前の情勢

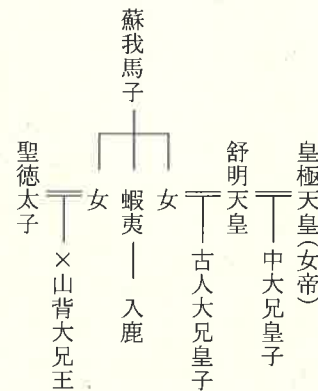
①東アジア情勢の変化

中国で3 <sup>とう</sup>唐 が成立(618年)。朝鮮半島の高句麗、百濟、新羅でも国家体制の整備が進み、中央集権化が行われる。

〈これらの情報が4 <sup>みなぶちのしようあん</sup>南淵請安 を通じて中大兄皇子、中臣鎌足にもたらされたとされる。〉

②蘇我氏の専横 <sup>せんおう</sup> ※専横=わがままをどこまでも押し通す様子

天皇の後継問題に絡み、蘇我入鹿が5 <sup>やましるのおおえのおう</sup>山背大兄王 を自殺に追い込む(643年)。



大化改新

1. 大臣・蘇我氏の打倒 (「6 <sup>いっし</sup>乙巳の変」)

◇7 **645** 年 中大兄皇子は中臣鎌足とはかり、計略に

より8 <sup>そがのいるか</sup>蘇我入鹿 をおびき出し殺害。

\*場所は<sup>あすかいたがきのみや</sup>飛鳥板蓋宮 \*当時の天皇は<sup>こうぎやく</sup>皇極天皇(中大兄皇子母)

\*直後に入鹿の父9 <sup>そがのえみし</sup>蘇我蝦夷 を襲い、自殺させる。

※古人大兄皇子は事件後即位のすすめを断って出家したが、謀叛の疑いで同年中に殺害された。

2. 新政府発足

①顔ぶれ [図表P.56③]

〔天皇〕10 <sup>こうとく</sup>孝徳 天皇

〔皇太子〕中大兄皇子

〔内臣〕11 <sup>うちつおみ</sup>中臣鎌足

〔左大臣〕<sup>あべのうちまろ</sup>阿倍内麻呂 〔右大臣〕<sup>そがのくらやまだいしかわまろ</sup>蘇我倉山田石川麻呂

〔国博士(政治顧問)〕12 <sup>たかむこのげんり</sup>高向玄理 ・ <sup>みん</sup>旻

②遷都

<sup>いたがきのみや</sup>飛鳥板蓋宮 → 13 <sup>なにわのみや</sup>難波宮 (難波長柄豊碕宮) [図表P.60②]

◇ **大化改新**は権勢を誇った蘇我蝦夷・入鹿父子の暗殺事件から始まりま  
す。この暗殺事件を指して**乙巳の変**と呼んでいます。中大兄皇子たちが  
蘇我氏殺人事件を起こした背景を教科書ではなんと説明しているでしょ  
うか? **P.38L.6**で確かめてください。ただ、人を殺すというのはそう簡  
単な決断ではないでしょう。しかも相手は当時の最高権力者です。  
**P.38L.6**のような「理想」のみで殺人の決断をすることは困難に思われ  
ます。

**プリントの系図**を見てください。この系図は皇極天皇後の次期天皇候  
補三名を含む系図です。蘇我氏の思惑は古人大兄皇子にあったようです。  
そして643年、山背大兄王が蘇我入鹿によって殺害されます。蘇我の娘  
から生まれている山背大兄王ですら殺害される…。中大兄皇子には蘇我  
の血は入っておらず、まあ流れから「当然、自分は蘇我氏にとって邪魔  
な存在。次は私が殺される番だ」と思いますよね。そういう意味では、  
入鹿が山背大兄王を殺害してしまったことが乙巳の変につながったよう  
に思えるのです。

◇ **乙巳の変**の様子は有名ですので紹介しておきます。**中大兄皇子**と**中臣  
鎌足**は蘇我入鹿暗殺を決意します。高句麗、百濟、新羅の使者が天皇に  
貢ぎ物を捧げる儀式が行われることになっており、そこに出席する大臣  
蘇我入鹿を狙うということになりました(この儀式はニセの儀式という  
説も有力です。ニセとするならかなり大がかりな芝居になりますが…)。

シナリオは…①中大兄の協力者がニセモノの国書を読む、②その国書  
のある箇所まで読んだら、③隠れていた二人の刺客が飛び出して入鹿を  
切り捨てる、というものでした。ところが**トラブルが発生**します。①、  
②まで進んだのに刺客が飛び出てこないのです。この大事なときにビビ  
って出られなかったようです。ニセの国書を読んでいる人も、筋書き通  
りに進まないで動揺を隠せません。そこで、④**中大兄が自ら飛び出し  
て入鹿に切りつけ、最後は刺客がとどめを刺した**、というものです。そ  
の計画は**皇極天皇(中大兄皇子の母)**も知らされていなかったの  
で、大事な儀式(のはず)の最中に、**突然我が子が飛び出してきて目の前で殺  
人事件を起こす**のですから動転したと思われます(蘇我入鹿がとどめを  
刺される前に皇極天皇は退出したようです)。